

摂食のためのSOSアプローチの基本原則 -白書-

Copyrighted materials (1990/2023) translated with permission from Dr. Kay Toomey and SOS Approach to Feeding. These materials cannot be presented, taught, or copied by any other person without direct permission from Dr. Kay Toomey (info@sosapproach.com)

Agreement Terms & Conditions

I agree that all the translated materials are copyrighted materials owned by Dr. Toomey and cannot be copyrighted under any other name or organization after translation is made. Dr. Toomey will also own the copyright for the translated materials, not the person or organization requesting to complete the translation. I am being given permission to translate these documents by Dr. Toomey under the condition that Dr. Toomey is provided a copy of the translated document for prior approval/ authorization before releasing the translated materials. I agree that I will state that these materials cannot be presented, taught, or copied by any other persons without direct permission from Dr. Toomey. I also agree that Dr. Toomey may use these translations of her materials to give to other professionals without reimbursement, recognition, or specific permission from myself.

In addition to translating the requested document (s), I agree to translate the SOS Approach to Feeding Copyright Statement (see Copyright Notice document included below) and provide a copy to Dr. Kay Toomey. I agree to include this Copyright Notice with any translated SOS materials that will be distributed.

著作権で保護された資料（1990/2023）は、Dr. Kay ToomeyとSOS Approach to Feedingの許可を得て翻訳されたものです。これらの教材は、Dr. Kay Toomey (info@sosapproach.com) の直接の許可なく、他のいかなる人物にも提示、教授、コピーすることはできません。

私は翻訳された資料はすべてDr.Toomeyが所有する著作物であり、翻訳後に他の名称や組織で著作権を主張することはできないことに同意します。また、Dr.Toomeyが翻訳物の著作権を所有し、翻訳を依頼した個人や組織が著作権を所有することはありません。私はDr. Toomeyがこれらの文書を翻訳することを許可されましたが、その条件として、Dr. Toomeyが翻訳された文書を公開する前に、事前の承認／認可のために翻訳された文書のコピーを提供されることを条件とします。私は、Dr. Toomeyの直接の許可なく、これらの資料を他のいかなる人物にも提示、指導、コピーできないことを明記することに同意します。私はまた、Dr. Toomeyが他の専門家に提供するために、私自身からの払い戻しや承認、特別な許可を得ることなく、これらの翻訳資料を使用することに同意します。（翻訳者代表：大山牧子）

摂食のためのSOSアプローチの基本原則 -白書-

私たちは支援する相手が皆最大限の可能性を持っていると信じています。私たちが摂食障害を抱える子どもを支援するという事は、情緒的且つ論理的な困難を抱えた子どもに対して思いやりや共感を持って接することと捉えています。そのために私たちは摂食のためのSOSアプローチを作成しました。私たちは、摂食障害を抱える子どもは「そういう時期もあるから様子を見る」では済まされないことを知っています。子どもが単に生きていくのみならず、成長に必要な栄養素を確実に摂取することは容易ではありません。

摂食のためのSOSアプローチの基本は、この白書で以下により詳細に説明します。

SOSアプローチにおいて、私たちは以下の点を重要視しています。

- それぞれの子どもとその家族が得意としていることに合わせて、子どもの体に最適なペースで食べ方を身につける支援をします。
- 食べるための技能を磨くために、子ども自らの動機づけを促します。
- 子どもたち一人ひとりの発達状況、学習能力、体の特徴や環境が異なることを踏まえたうえで、典型的な発達過程を設計図（道しるべ）として食べるためのスキルを教えます。
- 実践的な推論をもとに子どもたちの長所や違いを尊重しながら、様々な食品や栄養素を選び摂取する技能を身につける支援をします。
- 子どもと支援者の遊び心を大切にし、子どもの発達段階や興味に合わせた「目的を持った遊び」を通じて支援を行います。
- 摂食障害に関する研究を社会のより多くの人たちに知ってもらう活動をします。

SOSは家族を中心にこどもの長所に注目し、本人の意欲・興味・関心を大切にします。

- こどもは常に正しいと信じています。こどもが普段と違う行動をしているときは、何か理由があります。私たち大人の仕事は、こどもが行動を通じて伝えようとしていることを粘り強く理解しようとすることです。
- 子どもたちそれぞれの長所や違いを理解するために、摂食に関わる7つの領域（臓器、筋肉、感覚統合、学習、発達、栄養、環境）すべてについて詳細な評価を行います。詳細は、SOS Approach to Feedingのウェブサイトをご覧ください。
- こどもとその家族との信頼関係を築き、それぞれの興味・意欲・関心をみつけます。ひとはもの（製品）や他人による圧力や報酬が与えられることよりも、自分の興味・意欲・関心に基づいて楽しむために行動します。(Ryan & Deci, 2000).
- 食品が自分の体によりうまく作用するための問題解決方法を学ばせて、意識してこどもに自信を与えるようにします（力をつけてもらいます）。新しい感覚や困難な感覚を避けたり、無理やり食べようとしている「押し通す」ことに気づいたら、大人はそのまま続けるのではなく、大人が介入し、こどもが安心感を得て、食事を続ける前に落ち着けるようにします。大人はまた、こどもが心地よく食べ物と向き合える方法を見つけたり、将来にわたって食事の経験をより良いものとなるよう支援します。実践的な推論をもとにこどもたちの長所や違いを尊重しながら、様々な食品や栄養素を選び摂取する技能を身につける支援をします。
- こどもの養育者と積極的に関わり、養育者にこどものコミュニケーションやサインを理解してもらうことで、それぞれの自宅でも個別性の高い支援方法を提供できるようになります。私たちはこどもやご家庭の習慣、それぞれのご家庭で大切にしたいことを尊重して、こどもが家庭や地域社会など集団での食事に参加できるよう養育者を支援します。
- こどもと家族の目標に焦点を当てて、目標達成のために必要な課題に介入します。治療戦略は、こどもと家族の目標に可能な限り沿うように努めます。

SOSは飲むことと食べることの定型的な発達を大切な設計図（道しるべ）とします。

- 飲むことや食べることを教えるための道筋である定型発達に沿って支援します。SOSのDevelopmental Food Continuumは、こどもが哺乳から食事を食べるようになるまでの発達段階をまとめています。
- こどもの神経発達や家庭環境の違いをよく理解し、それぞれの個別性に合った支援を行います。それぞれのこどもと環境に最も適した方法で栄養摂取できるよう、適切な介入を行います。
- 食べることと飲むことは学んで獲得する技能です。身体的困難や技術的に不十分な場合、こどもたちは摂食/哺乳障害をきたします。研究によると摂食/哺乳障害は養育者の問題であることは稀であり、行動上の問題だけが原因ではありません。(Alexander et.al., 2021; Babik et.al., 2021; Chen & Chien, 2022; Eddy et.al., 2015; Emmett et.al., 2019; Kovacic et.al., 2020; Machado et.al., 2017; Olsen et.al., 2019; Saltzman et.al., 2019; Reynolds et.al., 2023; Reilly et.al., 2019; Sdravou et.al., 2019; Toffol et.al., 2019; van der Horst & Sleddens, 2017; Wolstenholme et.al., 2020; Williams et.al., 2009; Yi et.al., 2013).
- 食事中にこどもが困難な行動を示す場合は、身体的及び技術的な困難性のため摂食が十分にできないことを大人に示そうとしているのです。

SOSはこどもが食べ方を学ぶために食べ物を活用します。

- 食べ物の識別は複雑で、感覚の個性や運動要求、口腔運動発達だけでなく、これまでの食べ物との関わりや食べ物に対する思考も関わります。詳細については、[SOS Approach to Feeding](#) ウェブサイトを参照してください。
- こどもにとって食べることは、8つの感覚機能を同時に統合するという最も複雑な作業です。食べ物から受ける感覚は食べ物ごとに異なり、咀嚼や嚥下する間にも絶えず変化します。よって、おもちゃや雑貨ではなく食べ物を利用することで、効果的かつ効率よく感覚スキルを身につけることができます。

SOSはこどもが食べ方を学ぶために食べ物を活用します：続き

- 口腔運動発達には大変高度な神経筋肉運動が必要であり、食べ物以外のものを利用しても、こどもは食べるのに必要な技術を習得することはできません。
- 感覚に基づく問題解決法を用いて、新しい食べ物や手強い食べ物を変えて、その食べ物が体にとってより良い働きをするようにすることで、こどもはより幅広い種類の食べ物を食べられるようになります。
- こどものスキルや快適さの段階に合わせた方法で、成長に必要な栄養が摂取できるようにサポートします。食事に参加し、主に楽しみながら食べる「social eater」であっても、栄養のほとんどを経管栄養やシェイクで補うこどももいます。また、食べるものが限られていても、（レストランや友達の家、旅行先などで）入手可能な食べ物に適応し必要な栄養を満たすこどももいます。似たような食品を食べることが効果的なこどもがいる一方で、精力を使い果たして食事のレパートリーが減らないように、多様な食品を食べて十分な栄養を摂取できるようサポートします。
- 食べることと食べ物を分かち合うことは、しばしば社会交流の機会となり、また世界各地で異なります。文化的な違いが理解され尊重されるよう、それぞれのこどもと家族に合わせた支援を行います。

SOSでは、こどもの興味と認知年齢に合った目的のある遊びを行います。

- 食べることと学ぶことは楽しくて仕方がないという考えを体現します。こどもは遊びを通して学ぶのが最も効果があり、体力的に可能な範囲でこどもが興味あることを取り入れることで、こどもの意欲が向上します。
- こどもは認知年齢によって遊び方も学び方も異なります。こどもたちが有意義な遊びに最大限に参加できるようにするには、こどもたち一人ひとりが世の中をどのように理解しているかを知る必要があります。こどもが世の中を理解し、世の中と対話する力は、認知が発達するにつれて時間とともに変化します。

SOSでは、こどもの興味と認知年齢に合った目的のある遊びを行います：続き

- こどものレディネス(準備ができていること)を尊重して新しいスキルを教えるために、系統的な脱感作を用います。こどもが新しいスキルを習得するために、体と心の準備が出来ていることを確認しながら系統的な手法で脱感作を行います。これは巷でよくみられる多くのセラピーで完全除去や大量暴露、食べれば不快な経験を避けられる仕組み作りなどの脱感作療法と称した手法とは異なります。これら大人がコントロールする方法では、こどもの処理能力をオーバーしてしまいます。系統的な脱感作を適切に用いた場合、上達のペースは常にこどもが握っています。こどもは大人と一緒に、こどもの興味や関心、遊びの快適さに合わせて遊びながら「食べるためのステップ」を登ったり降りたりします。セラピストは継続的にこどもを評価し、こどもの合図に反応します。こどもにストレスや苦痛を感じている様子があれば、「食べるためのステップ」を後退させて再び調整できるよう手助けします。特定のステップを完了すること、特定の食べ物を食べること、必要な量の食べ物や水分を摂取することを大人が要求するのに対して、こどもは自分のペースで食べられるようになるためのステップを進むことができます。
- こどもがその気になったときに「食べるためのステップ」を登ったり降りたりできるようにすることで、こどもが仮面をかぶったりシャットダウンしたり、同調したりすることもなく、今この瞬間に留まって学習し、新たな脳の回路を構築することができます。
- こどもは治療を受けるまでに他の外的ストレスを経験していることがあり、それが食べることの学びを難しくしているかも知れません。セッションごと、あるいは週ごとに、こどもの遊びに対する姿勢が変化する可能性があるため、SOSセラピストは、その日のこどもの遊びや学習に対する姿勢を尊重し、こども一人ひとりに常に適した関わりをします。

SOSは研究から得られ根拠に基づいた方法です

- 世の中には、食事や食事の時間にまつわる多くの神話があり、それらは食べることに苦勞している子どもたちを支援しようとするときに役に立ちません。これらの神話が誤りであることを示す研究があります。(Acar et.al., 2021; Ahmed et.al., 2017; Archambault & Coceani Paskay, 2019; Balantekin et.al., 2020; Birch & Doub, 2014; Black & Hurley, 2017; Bryant-Waugh et.al., 2010; Burklow et.al., 1998; Carruth & Skinner, 2000; De Jesus et.al., 2019; Delaney & Arvedson, 2008; Delaney et.al., 2021; Emond et.al., 2020; Field et.al., 2003; Franceschi et.al., 2021; Frerichs et.al., 2016; Green et.al., 2017; Harrison et.al., 2015; Hirsh-Pasek et.al., 2022; Jansen et.al., 2017; Khamis et.al., 2019; Krom et.al., 2020; LeReverand et.al., 2014; Liu et.al., 2017; Loth et.al., 2023; Mason et.al., 2005; McSweeney et.al., 2013; Motion et.al., 2001; Mura Paroche et.al., 2018; Overby et.al., 2020; Rachwani et.al., 2015; Ramos et.al., 2021; Reilly et.al., 1999; Reynolds et.al., 2023; Rohlf-Dominguez et.al., 2020; Ross & Fuhrman, 2015; Ryals et.al., 20016; Seiverling et.al., 2019; Selbuz et.al., 2019; Simione et.al., 2018; Suarez et.al., 2017; Telles & Macedo, 2008; Torola et.al., 2012; van der Veek et.al., 2019; van Vliet et.al., 2021; Ventura & Birch, 2008; Wilensky et.al., 1996; Williams et.al., 2009; Yi et.al., 2013). 10の神話をご覧ください。
- 新しい研究が発表されるときに、私たちは臨床論と実践を改訂しています。
 - 267の学術論文と研究において、摂食技能発達の基本と、SOS Main Training Conferenceで学ぶ摂食障害に対する独自の介入法が論じられています。
 - 130の研究はSOS Approach to Feeding programの治療戦略と方法を支持しています。
 - 14の研究はSOSアプローチの有効性を示しています。
- 小児摂食障害の正確な評価と鑑別診断には、この分野の標準的なケアとして文書化されている学際的なアプローチが必要です(Goday et.al., 2019)。
- 「食べるためのステップ」を利用してすべてのセッションの進捗状況を明確に記録することで、スキル習得の正確な追跡が可能になり、その他重要な変化を捉えて記録することができます（例えば、食べ物の周りで快適に過ごせる、より自主的に問題解決ストラテジーを使う、家族の食事への安全で楽しい参加）この記録によって、新しい食品や特定の食べ物の量を食べるだけでなく、より細かな進歩を捉えることができます。